

科目名	日本語理解A (国語総合) Japanese A: Japanese in General						
科目担当者	清松 大 KIYOMATSU Hiroshi						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [総合教育科目 総合講座] 経営学部・経営学科 [総合教育科目 総合講座]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	<p>本科目の目的は、大学生としての活動に必要とされる日本語運用能力を身につけるため、高校までの「国語」の学びなおしも含め、その基礎的な部分を固めていくことにある。そこで習得された能力は、大学内での言語活動のみならず、大学卒業後の社会人・職業人としての言語活動においても活かされるものとなるだろう。また、高校までの「国語」とは異なり、「国語」(日本語)という概念や一般的な授業のあり方を疑い、批判的にとらえなおしていく視座を大切にしたい。なお、授業の形態としては、受講生各自による実践(授業内課題・アンケート等)を交えた講義形式が基本となる。</p>						
授業の到達目標	<p>① 大学生に求められる基本的かつ総合的な日本語運用能力(漢字の読み書きや敬語の使い方、読解力、記述力など)を身につける。 ② 論理的思考力を磨き、より高度な文章を理解できるようになる。 ③ 多種多様な言語情報を批判的に精査・分析・選別するためのリテラシーを身につける。 ④ 古今東西の様々な文章や作品を、主体的に受容していくための素地をつくる。</p>						
授業計画・内容	1	イントロダクションーなぜ大学で「国語」を学ぶのか?					
	2	日本語文法のフシギー若者の言葉は乱れているのか?					
	3	メールの書き方から「敬語」を学び直す					
	4	国語(日本語)と漢字(漢文)の関係性					
	5	古典は本当に必要なのか?①ー肯定派・否定派の議論から					
	6	古典は本当に必要なのか?②ー文学としての古典					
	7	文学批評への招待①ー「感想文」から「批評」へ					
	8	文学批評への招待②ーテキスト分析の実践					
	9	メディア・リテラシー入門①ー情報分析と批判的思考力					
	10	メディア・リテラシー入門②ー「ポスト真実」の時代を生き抜くために					
	11	評論文からクリティカル・リーディングを学ぶ					
	12	文章表現の基礎①ー「読む」ことから「書く」ことへ					
	13	文章表現の基礎②ーレポート作成術(要約と引用のスキル)					
	14	文章表現の基礎③ー話し言葉と書き言葉					
	15	総括ー『船を編む』から国語と言葉を考える					
授業外学修 (事前学修)	・授業計画の内容に即して予備調査をしておく(毎週1時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	・授業内で紹介した文献・作品等を読む(毎週3時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	・期末レポート					60%	①、③
	・授業内課題等(Moodle または紙媒体で提出)					40%	②、④
成績評価基準	秀:(評点90点以上)到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優:(評点80点~89点)到達目標を高い水準で達成している場合 良:(評点70点~79点)到達目標を一定の水準で達成している場合 可:(評点60点~69点)到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可:(評点60点未満)到達目標に達していない場合、課題点数が10点に満たない場合(40点満点)						
教科書	特に指定しない。適宜プリント等を配布する。						
参考文献	・野矢茂樹『増補版 大人のための国語ゼミ』(筑摩書房、2018年) ・橋本陽介『使える!「国語」の考え方』(筑摩書房、2019年)など						
その他							